

日本原子力学会 核燃料部会
平成 30 年度第一回運営小委員会議事録

日時 : 平成 30 年 5 月 28 日 (月) 13:30~16:15

場所 : 日本原子力学会 事務局 会議室

出席者 : 寺井部会長、宇埜副部会長、草ヶ谷副部会長、天谷委員、大矢委員、尾形委員、川西委員、河原委員、黒崎委員、佐藤(隆)委員、篠原委員、垣内様(谷口委員代理)、原田委員、平井委員、山内委員、柳沢委員、渡部委員、島田(記)

議事

1. はじめに

寺井部会長から、新年度初回の会合にあたり、また新たに一年間よろしくお願ひしたいとの挨拶があった。また、今回から委員として参加する篠原委員、川西委員より自己紹介及び挨拶があった。

2. 前回運営小委員会議事録等の確認

島田庶務幹事から、資料 1 により、前回(平成 29 年度第四回)運営小委員会議事録が提示された。軽微な追記事項及び修正事項を確認し了承された。

議題 11 ポジションステートメントについて承認が遅れており未承認であるが今週末頃承認の見込みである旨、尾形委員から報告があり、寺井部会長より改めて感謝の意が示された。

3. 平成 30 年度核燃料部会運営小委員名簿、業務担当について

島田庶務幹事から、資料 2-1~2-3 により、平成 30 年度の業務担当と今後の業務分担について説明があった。庶務幹事について、9 月末までが現担当で、10 月より新担当となる旨明確に記載することとすることです承された。

4. 平成 29 年度収支実績と平成 30 年度予算の確認について

島田庶務幹事から、資料 3 により、学会事務局の平成 29 年度実績に基づく当委員会の平成 30 年 3 月までの実績と平成 30 年度予算案が示された。平成 30 年度予算については、前回提示から臨時雇賃金について 30,000 円が平成 29 年度分から持越しになって加算され、加算分を旅費交通費にて調整した旨説明され、了承された。

5. 企画小委員会の概要について

資料 4-1 により、宇埜副部会長より第 1 回企画小委員会の議事録紹介があった。

6. IAEA TWGFPT 2018 年会合報告について

資料 5 により、尾形委員より IAEA「燃料の性能と技術に関するワーキンググループ」(Technical Working Group on Fuel Performance and Technology, TWGFPT) 2018 年会合の出席報告があった。

参加者 32 名のうち、通例通り新委員の国からの紹介があり、ハンガリーの VVER 炉の順調な運転状況やイランの重水炉燃料改良の取組、アルゼンチンで開催された加圧型重水炉燃料会合の報告等があった旨報告された。次回は 2019 年 4 月開催予定。

7. 核燃料部会報 53-1 の作成状況について

資料 6 により、大矢委員から、部会報 53-1 の作成状況について報告があった。短期間となるが、6 月 25 日～26 日あたりを締切として原稿を収集することとなった。夏期セミナーの募集については、夏期セミナー事務局と時期や書きぶりを調整することとなった。

8. 平成 31 年度夏期セミナーについて

資料 7 により、天谷委員より平成 31 年度 (2019 年度) の夏期セミナー案について報告があった。2019 年 7 月 10 日(水)～12 日(金)の 3 日間を検討しており、開催場所・見学場所は女川、福島 (福島第一)、大洗 (東海第二) を候補として検討しており、引続き検討いただくこととなった。

9. 平成 30 年度夏期セミナー (3 部会合同) 準備状況について

資料 8 により、垣内様 (谷口委員代理) より三部会合同となる平成 30 年度夏期セミナーの準備状況が紹介された。セミナー参加費に含むとされた懇親会費は分離することを検討中であること、学生参加者の旅費について核燃料部会は補助してきたが三部会の場合の扱いについては確認していくことが報告された。

2 日目の 45 分間の昼休みに今年度第 2 回の運営小委員会を開催できるよう、夏期セミナー担当にて手配いただくこととされた。

1 日目の部会長の基調講演は、核燃料研究分野全体をレビューするような内容とするとのことで、各委員に資料作成の協力要請があり了承された。

核燃料部会から講演をお願いする方については、謝金等の手続きをしたいが、学会規則との関係を確認して進めることとされた。

10. 部会等運営委員会関連の連絡について

資料 9 により、草ヶ谷副部会長から、6 月 1 日(金)に開催予定の部会等運営委員会に先駆けて、以下の連絡があった。

①部会持ち回りの枠組み編成 WG メンバー選出の順番が回ってきており、核燃料部会からは草ヶ谷副部会長が選出されるよう手続き済であること。

②プログラム編成 WG メンバーは、核燃料部会から 3 名出ており、うち JAEA 田中康介氏の任期満了につき、氏の推薦によって JAEA 森本恭一氏に快諾いただき手続きしたものの、森本氏は核燃料部会員でないため、入会を依頼したこと。

③学会の旅費・謝金規約が改訂になったこと。

以上より、③については、核燃料部会の旅費・謝金・参加費内規の見直しの必要性について議論するため、草ヶ谷副部会長及び島田庶務幹事にて次回運営小委員会までに準備することとされた。

11. 燃料デブリ研究専門委員会の活動報告について

資料 10-1～10-3 により、尾形委員より 2018 年秋の大会企画セッションについて紹介があった。今回は部会セッションとしてではなく、燃料デブリ研究専門委員会の「総合講演・報告」として事務局に提案した。燃料デブリ研究専門委員会は元々核燃料部会が中心となって立ち上げた専門委員会であり、核燃料部会に紐づかないことに違和感があるとの意見が多く、部会等運営委員会にて草ヶ谷副部会長に確認いただくこととなった。

12. 平成 30 年度「日本原子力学会核燃料部会部会賞」選考結果について

資料 11 により、平井委員から平成 30 年度「日本原子力学会核燃料部会部会賞（2018 年春の年会 学会講演賞）」選考結果報告書について報告された（本件はメール審議にて了承済）。資料 11 の p.4 審査結果連絡案文については、「2017 年度」→「2018 年度」に修正することで了承された。贈呈式については夏期セミナーで実施できるよう調整することとされた。

選考評価の観点については、「③口調、発生の判り易さ」はハンディキャップのある方に配慮し、「発表の判り易さ」等に今後修正すべきとされた。評価の観点すべてについて、募集要項に載せる等、公開することとされた。

募集の直前だけでなく、年度初めなどに賞の紹介を部会ホームページなどに掲載することとされた。

学会全体の賞の紹介一覧を示したポスターを作成することを部会等運営委員会に草ヶ谷副部会長より提案することとされた。

秋の大会の学会講演賞の選考に向けて、早々に今年度の選考小委員を選任す

べく、宇埜副部長に指名いただくこととされた。

13. その他

(1) 経済産業省公募研究「事故耐性燃料開発」について

川西委員より、JAEA が取り纏めている経済産業省公募研究「事故耐性燃料開発の基礎基盤研究」について、相談があった。当該研究は 2015 年から 2021 年まで 7 年間の予定で実施しているもので、エネ庁より電気事業者のコミットを求められた。電事連を通じて事業者とは話をしたところだが、日本の燃料の有識者として、核燃料部会からもこれまでの研究開発成果や今後の計画等についてコメントをいただきたいとのことであった。

事故耐性燃料(ATF)については情報交換や現状評価もできるが、“核燃料部会として”、となると技術的観点からのレビューになるかもしれないが協力は可能、との意見があった。一方で、まだ報告書は出ていないが、軽水炉燃料等の安全高度化ロードマップ検討WGにて「ATFは重要」とロードマップに位置づけられていると言え、WGにてとりまとめをどうするか、企画小委員会にて議論いただくよう宇埜副部長に依頼した。なお、対象として軽水炉に限らず広がりを持たせたほうがよい、との意見もあった。

(2) 次回の開催予定

次回（平成 30 年度）第二回運営小委員会は、8 月 7 日に夏期セミナー会場（掛川グランドホテル）で開催予定とした。

以 上